

2010年5月15日

オムロン基金プロジェクトによる研究プロジェクト申請書 (修正版)

申請者

所属 ビジネス研究科

氏名 村山裕三

1 研究プロジェクト名	伝統産業グローバル革新塾
2 研究メンバー ※ビジネス研究科 教員以外の者について は、所属先も記入し、履 歴書・業績書を添付す ること。	村山裕三 (リーダー、DBS 教員) 大久保隆 (DBS 教員) 浜矩子 (DBS 教員) (外部メンバー) 川邊祐之亮 (有限会社ジャパ ンスタイルシステム) 渡邊倫久 (株式会社フィール)
3 研究目的	<p>「伝統産業グローバル革新塾」(「革新塾」)は、2007年度に文部科学省の助成金を受けて始められたプロジェクトで、京都の伝統産業の若手経営者へのビジネス教育を通じて、次世代を担える伝統産業の経営者を育成し、これにより、京都の伝統産業を活性化させようとする目的を持つ。</p> <p>当プロジェクトは、教育のステージから実践のステージに移行し、2009年度からはオムロン基金の助成を受け、京都の伝統産業のグローバル化をめざして、2009年11月にはパリで「京都の赤展」を開催した。また、当プロジェクトは、海外展開をめざした「パリ班」に加えて、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と協力して、伝統産業の活性化の取り組みを行う「宇宙班」も展開しているが、こちらは、異業種とのコラボレーションにより、伝統産業を活性化する目的を持つ。</p> <p>「革新塾」は、「パリ班」と「宇宙班」の両方面からの展開により、京都の伝統産業を活性化させる産学連携プロジェクトであり、オムロン基金プロジェクトの(7)京都及び関西地域における産学連携、地域活性化等の推進、をめざしたプロジェクトである。</p>

<p>4 研究計画</p> <p>(修正点)</p>	<p>(2010年度)</p> <p>「革新塾」の活動と予算は、2010年6月まではすでに教授会で承認されているため、今回の研究計画は2010年7月以降のものとなる。</p> <p>1) 「パリ班」</p> <p>2010年11月に、2009年度と同様に、パリで京都の伝統産業の展示会を計画している。場所は、モンパルナスの路地にあるギャラリーを2件借り切り、「Brilliant Trees (輝く木)」をテーマにして開催する。10人-15人程度の伝統産業の経営者と職人が参加する予定。</p> <p>2) 「宇宙班」</p> <p>2010年1月に、JAXAの「文化・人文科学利用ミッション」に「革新塾」が提案した「赤色」でつなぐ宇宙と伝統文化」が採択された。これは、日本の宇宙実験棟「きぼう」の中で、「桜吹雪」や「もみじ落葉」などの日本文化を表現し、これを新たな伝統産業のコンテンツにしようとするミッションである。実施は、2011年秋に計画しているが、実施に向けた地上実験を行う計画をしている。</p> <p>1) 宇宙班の活動のうち、「きぼう」の実寸大模型の製作は行わない(150万円削減)。これに伴い、筑波宇宙センターの施設の利用頻度が上がるため、宇宙班の交通費を24万円から36万円に増額。</p> <p>2) 予算の不足分については、外部資金の取得をめざす。なお、外部資金の取得が計画通り行かない場合は、2010年度のパリ展開をあきらめ、2011年度の京都での凱旋展示会を前倒して2010年度に行うこともある。</p> <p>(2011年度)</p> <p>1) 「パリ班」</p> <p>①2011年春に、パリからの凱旋展示会を京都で行う。</p> <p>②2011年秋に、第3回の京都の伝統産業の展示会をパリで開催する。テーマは未定であるが、会場は、1-2回を開催したモンパルナスのギャラリー、あるいは、日本文化センターを利用する予定をしている。</p>
----------------------------	---

	<p>2) 「宇宙班」</p> <p>①2011年秋に、「きぼう」の中で、「桜吹雪」と「もみじ落葉」のインスタレーションを行い、これを画像、映像におさめるミッションを行う。これを、伝統産業の新たなコンテンツとして、活用する道を開く。</p> <p>②上記のミッション終了後に、記念シンポジウムを開催するとともに、2011年に開催される「京都きものサローネ」や「パリ班」の京都凱旋展でも、その成果を公開する。</p>
<p>5 期待される成果</p>	<p>「革新塾」プロジェクトは、「パリ班」と「宇宙班」の活動により、現場の経験を通じた、伝統産業の人材育成に努めている。これにより、次世代を担える伝統産業の経営者や職人を育成するとともに、人材育成を通じた地域の活性化に貢献することが期待できる。また、これと同時に、パリで京都の伝統文化を展示することにより、姉妹都市である京都とパリの文化的な結びつきを強化することに貢献するし、また、京都文化の存在感を世界に向けて示すことにもつながる。これに加えて、「宇宙班」で、宇宙と伝統産業を結び付けた展開をすることにより、伝統産業には、宇宙という新たなデザインソースを与え、新たなコンテンツを提供することになるし、日本の宇宙開発に、他国にはない、文化という独自性を付与することにもつながる。</p>
<p>6 研究成果の発表方法</p>	<p>「パリ班」の活動は、パリと京都における展示会が、成果の発表の場となる。その成功の度合いは、メディアによる展示会の評価と（ちなみに、2009年の「京都の赤展」では、日経新聞、日経MJ新聞、産経新聞、京都新聞に取り上げられた）、展示会における販売実績により、とらえることができる。</p> <p>「宇宙班」の成果は、2011年度に開催する、JAXAと共催の一般向けシンポジウムと、京都織物卸商業組合主催の「きものサローネ」で発表する。また、2011年度の京都における「パリ班」の凱旋展示会でも、その成果の一部を発表する予定をしている。</p> <p>プロジェクトの終了後は、2年にわたる活動の内容とその成果をまとめた報告書を作成する。</p>

2011年4月28日

オムロン基金プロジェクトによる研究プロジェクト申請書

申請者

所属 ビジネス研究科

氏名 村山裕三

1 研究プロジェクト名	伝統産業グローバル革新塾
2 研究メンバー	村山裕三 (リーダー、DBS 教員) 大久保隆 (DBS 教員) 浜矩子 (DBS 教員) (外部メンバー) 川邊祐之亮 (有限会社ジャパンスタイルシステム) 渡邊倫久 (株式会社フィール)
3 研究目的	<p>「伝統産業グローバル革新塾」(「革新塾」)は、2007 年度に文部科学省の助成金を受けて始められたプロジェクトで、京都の伝統産業の若手経営者へのビジネス教育を通じて、次世代を担える伝統産業の経営者を育成し、これにより、京都の伝統産業を活性化させようとする目的を持つ。</p> <p>当プロジェクトは、教育のステージから実践のステージに移行し、2009 年度からはオムロン基金の助成を受け、京都の伝統産業のグローバル化をめざして、2009 年 11 月にはパリで「京都の赤展」を開催した。また、当プロジェクトは、海外展開をめざした「パリ班」に加えて、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と協力して、伝統産業の活性化の取り組みを行う「宇宙班」も展開しているが、こちらは、異業種とのコラボレーションにより、伝統産業を活性化する目的を持つ。</p> <p>「革新塾」は、「パリ班」と「宇宙班」の両方面からの展開により、京都の伝統産業を活性化させる産学連携プロジェクトであり、オムロン基金プロジェクトの (7) 京都及び関西地域における産学連携、地域活性化等の推進、をめざしたプロジェクトである。</p>

4 研究計画

(2011年度)

1) 「パリ班」

2011年度中に、京都の伝統産業の展示会をパリで開催する。テーマなどは未定であるが、場所は、2009年と同じモンパルナスの路地にあるギャラリーを借り切り、開催する予定をしている。なお、会場が変更される場合があるし、また場合によっては、「メゾン・エ・オブジェ」のような国際見本市に出展することも検討中である。見本市への出展を通じてパリ展開をする場合は、パリ班関連の予算の内訳を変更せざるを得ないが、その場合は、修正予算書を提出する。

2) 「宇宙班」

2011年秋-2012年春の期間(JAXAの実験スケジュールに左右される)に、日本の宇宙実験棟「きぼう」の中で、「桜吹雪」のインスタレーションを行い、これを画像、映像におさめるミッションを行う。これを、伝統産業の新たなコンテンツとして、活用する道を開く。この計画に向けて、必要機材の最終準備(撮影ネット最終改造、友禅布の製作など)を行う。

3) 「京都カスタマイズ」

2011年3月よりスタートした「京都カスタマイズ」の展開を強化する。具体的には、既存のHPに、①受注から制作への流れのより詳細な説明、②参加メンバーの個人ページの設置、を加えて充実させ、実際の受注につなげる努力を行う。

4) 出版関係

2011年度は、プロジェクトの最終年度になることに加えて、「革新塾」自体も5年目の節目を迎えるため、今までの実績や課題をまとめ、国内外に向けて「革新塾」の情報発信を行う。媒体は以下の三つを計画している。

①単行本の出版:「革新塾」の過去5年間の活動をまとめ、それを踏まえた京都の伝統産業の発展方向性を示す本を出版する。なお、文章に加えて、パリ、東京、清水寺における展示会などの画像をふんだんに取り入れた本にする。

②雑誌への掲載:美術工芸系雑誌で、「革新塾」の特集を組んでもらい、そこで「革新塾」「京都カスタマイズ」及び参加メンバーに関する情報発信を行う。

	<p>③海外で出版される本に、「革新塾」のメンバーが部分執筆を行い、また、「革新塾」と参加メンバーについての記述も入込む。現在、英国のアーティスト、Pip Dickens が編集する本 (SHIBUSA – Extracting Beauty) へ掲載する計画が進行中で、2011年度に原稿の提出、英国側原稿のチェックなどを行う。</p>
<p>5 期待される成果</p>	<p>「革新塾」プロジェクトは、「パリ班」と「宇宙班」の活動により、現場の経験を通じた、伝統産業の人材育成に努めている。これにより、次世代を担える伝統産業の経営者や職人を育成するとともに、人材育成を通じた地域の活性化に貢献する成果が上げることができる。また、これと同時に、パリで京都の伝統文化を展示することにより、京都とパリの文化的な結びつきを強化することに貢献するし、また、京都、特に伝統産業文化の存在感を世界に向けて示すこともできる。</p> <p>また、新概念ビジネス「京都カスタマイズ」を展開することにより、京都の伝統産業をビジネスの観点から、実際に活性化することができるし、これが成功すれば、京都の他の伝統産業にも、業界活性化のモデルと道筋を示せることになる。</p> <p>これに加えて、「宇宙班」で、宇宙と伝統産業を結び付けた展開をすることにより、伝統産業には、宇宙という新たなデザインソースを与え、新たなコンテンツを提供することになる。また、宇宙を通じて、沈滞した伝統産業に夢を与えることができる。</p>
<p>6 研究成果の発表方法</p>	<p>研究計画の4) 出版関係の部分で記述したように、3種類の出版物を通じて、研究成果の発表と外部への情報発信を行う。なお、これらの出版を含めた「革新塾」の活動は、HPを通じて、広く広報を行う。また、新聞等の媒体もフルに活用した情報発信を行う。</p>

2011年9月28日

オムロン基金研究プロジェクトの実施内容の変更依頼

プロジェクト名 伝統産業グローバル革新塾
代表者 村山裕三

オムロン基金研究プロジェクト「伝統産業グローバル革新塾」の2011年度後半（2011年10月～12年3月）の実施計画について、以下のような変更の必要が生じたので、ご承認のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 変更の背景

当初の2011年度の計画では、パリ班がパリ・モンパルナスのギャラリーで展示会を行う予定していた。しかし、「革新塾」内で何度も海外展開の方法についての議論を重ねた結果、「革新塾」の現段階では、ギャラリーでの展示会よりも、海外の見本市での展開の方が望ましいとの意見が大勢を占め、パリの「メゾン・エ・オブジェ」を始め、ニューヨークや香港での見本市への出展の可能性を探った。しかし、どの見本市も、出展費や開催日の関係で、我々のニーズと折り合う見本市がなく、この可能性も断念することになった。この一方で、2011年3月に立ち上げた「京都カスタマイズ」の活動を強化すべきという意見が強くなり、この方向で事業を進めてゆくことで意見の一致をみた。

一方、「宇宙班」では、2011～12年の宇宙実験棟での「桜吹雪」実験を控えて、この活動をより広く社会に周知する必要性が高まってきた。このため、2011年秋に京都で「国民文化祭」が開かれる機会をとらえて、集客が期待される「国民文化祭」のイベント「京都きものサローネ」で、「革新塾」の「宇宙班」の活動を紹介する展示を行うことにした。

2. 変更後の実施内容

「京都カスタマイズ」の活動を強化するために、2012年3月にシンポジウムを京都で開催する。これは、2012年3月に出版される予定の『伝統産業から文化ビジネスへ：伝統産業グローバル革新塾の5年間』の出版記念を兼ねたシンポジウムで、「革新塾」の5年間の活動を紹介するとともに、「京都カスタマイズ」の活動を広く社会に周知することを目的とする。このシンポジウムの開催に加えて、社会への周知のためにホームページを強化するとともに、「京都カスタマイズ」がターゲットとする企業向けのノベルティ・グッズの市場調査を行う。

「京都きものサローネ」は、2011年11月1日～3日に京都産業会館で開催されるが、ここで入口のブースを確保し、「革新塾」の宇宙分野での活動についてのパネル展示と、「宇宙班」が開発した着物を中心とした作品展示を行う。